

「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業」
実社会対応プログラム最終評価結果表

課題	制度、文化、公共心と経済社会の相互連関
研究テーマ名	私益と公益が錯綜する公共的意思決定のプロセスデザインに関する研究
研究代表者	大沼 進
所属機関・部局・職	北海道大学・大学院文学研究科・教授
研究成果の総合評点：A	
研究成果の評価に係る所見	
<p>本研究は、私益と公益が錯綜する場合の意思決定のあり方について、函館市での社会実験、ゲーム理論による解析など、三つの手法を用いて解明したものである。順調に研究を遂行して各手法ごとに具体的な成果を出し、また成果発信も積極的に行われている。</p> <p>ただし、成果とされる知見の専門的・学術的な意義をさらに明確に定義すれば、より豊かな貢献をもたらしたと思われる。</p>	

※ 「研究成果の総合評点」に対する標語は下記のとおり。

- S. 研究目的に照らして、期待以上の成果があった
- A. 研究目的に照らして、期待どおりの成果があった
- B. 研究目的に照らして、十分ではなかったが一応の成果があった
- C. 研究目的に照らして、十分な成果があったとは言い難い